第４回総合計画審議会（全体会）

― 議事録（要旨）―

■日時：令和６年 11 月 13 日（水）10：00～
■場所：糸島市役所　市民ホール

（出席委員）

高野会長、吉岡副会長、園田委員、外山委員、三井部会長、能本委員、久保田委員、伊原委員、波多江委員、松隈委員、宗委員、石長委員、山根委員、野村委員、坂井部会長、三谷委員、花田委員、月川委員、財津委員、島村委員

（事務局）糸島市

経営戦略部　中村部長
企画秘書課　吉村課長、下尾課長補佐、合六主任、中島主事

【議事概要】

■　全体会

１　開会

２　会長挨拶

■　部会

３　協議事項

- 基本目標４　健康で安心して暮らせるまちづくり
- 基本目標５　ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
- 基本目標６　快適で住みよいまちづくり

・各部会に分かれて審議

■　全体会

４　全体共有

・各部会長からの報告

➢ 基本目標４　健康で安心して暮らせるまちづくり

■ 島村部会長

● 政策（１）包括的な地域福祉の推進　施策①地域福祉活動の充実

ＣＳＷの活動について、ＣＳＷは拠点をつなぐ役割を担っており、遠方に住む住民に対しても家庭訪問するなど、地域に積極的に赴いている。そこで、新たな担い手の発掘にとどまらず積極的に地域に出ていくことを応援するというところの取組の追加を検討していただきたい。

個人情報の問題について、災害時の対応を含め非常に重要であるため、主な取組（３）に個人情報の取り扱いの具体的な中身について記載していただきたい。

● 政策（１）包括的な地域福祉の推進　施策②重層的支援体制整備事業の推進

困っている人は実際に相談に来るため、困ったことに気づいていない人の発見が重要である。困ったことに気づいていない人を発見できる場の設定を検討いただきたい。日頃の会話の中で生まれてくることであると想定されることから、福祉教育の一環としてヤングケアラーや引きこもりについて学ぶ機会を設定してはどうか。

相談対応をしていくという表現が多数見られるが、相談対応と課題解決は常にセットであるべきであるため、表現を合わせてセットにして記載していただきたい。

● 政策（１）包括的な地域福祉の推進　施策③地域で見守り、支え合う仕組みづくり

日中市内で過ごす人が減少していることから、地域活動による見守りが実際には難しいのではないかという意見が出た。行事の参加者も減ってくる中で、地域活動について、行事を実施するというよりも、生活の中で困りごとを洗い出せるような取組も必要とするという意見が出た。

孤独な見守りにならないように、見守り側の支援についても必要という意見が出た。見守り強化という表現は監視につながりかねないため、「強化」を強調するのではなく、新たな発見力を高めるため、市民活動を含めた幅広い地域活動を支援するという意味合いで、新たな見守りの仕組みの記載を検討いただきたい。

● 政策（２）健康・医療の充実　施策①市民の健康管理体制の充実

主に受診しやすい環境づくりについて書いてあるため、この施策名自体をわかりやすくした方がいいのではという意見がでた。

心の健康についての記載がないため、心の健康づくりや自殺対策について追記していただきたい。

糸島市の病院では患者を送迎しているというケースもあるため、記載をするかどうかは検討いただくとして、受診しやすい環境づくりをつくっているのであれば、それを取組として追記していいのではないか。

● 政策（２）健康・医療の充実　施策②地域と連携した健康づくりの推進

現状と課題③「多様な健康づくり事業の形態が求められます」について、団体を作るとしても申請のハードルが高いため、少し申請のハードルを下げて申請書類を簡単にしてもいいのではとい

う意見があった。

夜に仕事をされている方の健康づくりに関する記載があってもいいのではという意見があった。

暮らしと結び付けた取組として、食・運動・睡眠など明るく楽しく予防ができるような意味合いを持つ取組はいかがかという意見もあった。

- 政策（２）健康・医療の充実　施策③保健・医療・介護ネットワークの構築

最期まで自宅で暮らしたいという方を含めて、そもそもどういった最期を迎えたいのかという希望を叶えるということの取組が必要である。在宅で看取るということは、一人でいるときに亡くなると検死をしなければならない現実もあるため、そこも含めて伝え、在宅での看取りのことを少し詳しく記載することを検討いただきたい。

- 政策（３）支援を必要とする人たちへの福祉の充実　施策①高齢者の社会参加の支援

活動の場が少ないサポーターと、活動の場を創出することはセットで展開する。また、高齢者にも多様性が広がっているため、シニアクラブよりももう少し選択の幅を持った存在意義の見直しも必要なのではないか。従来型に加えて新たな取組を作っていくことも必要であるという意見が出た。

- 政策（３）支援を必要とする人たちへの福祉の充実　施策②高齢者の介護予防と自立した生活の支援

2040 年に 85 歳以上がピークになることから、今から 60 代 70 代の人達に頑張ってもらうために、その人達が実践しやすい取組を記載していただきたい。

- 政策（３）支援を必要とする人たちへの福祉の充実　施策③障がい者福祉の充実

講座では障がい者について理解したとしても、地域に帰れば実際に不審者なのか障がい者なのわからないことがあるため、その実情も踏まえて検討してほしいという意見があった。また、民間ではなかなか取り組めないことでもあるため、行政のサポートを検討してほしい。また、難病についても、福祉制度を使える範囲を増やしてほしい、検討してほしいという意見があった。

- 重点課題５　超高齢社会への対応　元気な高齢者が地域で活躍し、暮らせるまちプロジェクト

ハローワークでもなかなか仕事が見つからないというシニアに向けて、相談所を設定しているが、そういったマッチングに限らず高齢者がわくわくするようなおもしろいこと、１つの目標に向けてやるような取組、例えば将棋、運動、チーム戦、日頃のコミュニケーションと健康促進が一緒になったような取組を検討していただきたい。

➢ 基本目標５　ブランド糸島で活気あふれるまちづくり

■ 三井部会長

- 政策（１）農林水産業の振興　施策①農林水産業の活性化

40 年前と同じ内容であるというまちづくり市民委員会からの意見があるが農業者・漁業者の話

では現状の取組をやめてしまうということになると、今まで取組を継続してきたことにより下がり幅を維持できているかどうか、今のところ不明瞭のため、今までの取組をやめるという意思決定はしづらいといった意見が出た。ただ、効果があるのかどうか測定していきたいという話が出た。

ＡＩ、ＩｏＴの活用に関して、市単体での実施ではなくその分野に興味関心を抱いている企業業界との協働というところを検討してはどうかという意見が出た。それに加えて新技術に対する助成をもう少し手厚くすることを検討していただきたいという意見があった。

- 政策（１）農林水産業の振興　施策②農林水産物のブランド化

まず、市外にというよりは地元内、地区内での消費を促すべきであり、飲酒ができるような環境や宿泊施設の充実は深く結びついている。志摩地区に代表されるように、県や国の規制によって開発が思うように進まない地域がある一方で、福岡市は、同様の地区においても開発が進んでいるような背景があるため、その要因分析を進めていただきたい。一次産業の従事者だけで発信していくには限界があるため、もう少し糸島ブランドをＰＲできるような場を行政が提供していただきたい。

- 政策（１）農林水産業の振興　施策③担い手の育成と確保

糸島市は新規就農相談に来られる方の数は、かなり多いという現状がある。どちらかというと、そちらのフォローをいかにしていくかというところがかなり重要な項目のため、それを方針の中に追記していただきたい。

- 政策（１）農林水産業の振興　施策④持続可能な農村環境づくり

法人化を進めていくということがいろいろな課題に対しての解決策の 1 つである。ただ、法人化することに伴う問題点もいくつか議論され、そのあたりを洗い出した上で、法人化を進める、同時に課題、問題をフォローしていくというような形を作っていただきたい。

糸島を活かした環境、小さいことに取組む環境がそろっているため、大学との連携や、先進的な取組事例をつくり出す土壌がある、そういった視点でも施策を検討していただきたい。

- 政策（２）地域経済の活性化　施策①未来を担う企業の創出と育成

スタートアップ支援について、糸島市だけではなく、周辺地域、特に福岡市の連携も含めて取り組んでいただきたい。また、単純に数の理論だけではなく、どう増やすかというだけではなく、どう定着させるかというところも目標に盛り込んでいただきたい。

- 政策（２）地域経済の活性化　施策②地域経済循環率の向上

数値だけではなくて、目的意識を持った数値目標の整備が必要ではないか。それに伴い、宿泊施設の数だけではなく、周辺環境の整備にも目標を設定していただきたい。

- 政策（３）観光の成長産業化　施策①地域資源を生かした観光の振興

観光協会がＤＭＯ化したということがあるものの、リソースが十分ではない現状がある。市と共同してどうしていくかという部分について、表記していただきたい。

オーバーツーリズムについて、単純に観光客が多いことによる渋滞等の問題と、それとは別に観光客誘致に伴い、周辺住民に被害が及んでいるという不利益の部分も見受けられるため、切り分けて表記をして目標設定をしていただきたい。

- 政策（３）観光の成長産業化　施策②おもてなし環境の充実

市として、どのような方針でどのようなマーケティングを行っていくのかを示すべきではないか。具体的なところではなく、大枠としてどのような観光誘致をしていきたいか、どのような人を受け入れていきたいかという方針を検討して追記していただきたい。具体的には、長期滞在型のインバウンドを標的する、姫島の開発等が具体的な意見としては出た。

- 政策（４）企業誘致の促進　施策①企業から選ばれるまちの創出

どのような企業を誘致するか方針を明確に示さないと、どう動いていけばいいのかがわからない、わかりにくいという意見があった。

- 政策（４）企業誘致の促進　施策②新産業を創出する学術研究都市づくり

市民に、目的や将来像が共有できていないのではないか、市民がイメージできにくいのではないか。目的や将来像を明確に示していただきたい。

- 重点課題３　経済活性化（稼ぐ）への取組　“糸島しごと”のブランド化プロジェクト

特に意見なし。

- 重点課題４　学術研究都市づくり　“糸島サイエンス・ヴィレッジ”実現化プロジェクト

将来像の共有が不十分であり、サポート体制やインセンティブが明確になされていないため、企業側が意思決定しにくい状況にあるのではないかという意見があった。

➢ **基本目標６　快適で住みよいまちづくり**

■ 坂井部会長

- 政策（１）都市機能の充実　施策①良好な住環境の創出と都市的土地利用の促進

流通していない空き家があるため、それをどう流通させていくか検討していただきたい。

市営住宅を民間活用していく取組みが必要、コミュニティ維持の重要性、商店街を歩行者専用化していくような取組が必要ではないかというご指摘があった。

- 政策（１）都市機能の充実　施策②快適な公園の整備

民間活力の導入をされているところがあるが、さらに民活導入を推進して、民に任せる部分、街路樹の管理などの公益で実施するような部分の仕分けが必要である。

公園の災害機能向上について、災害の種類に応じた対策が必要である。

● 政策（２）交通環境の充実　施策①公共交通網の充実

交通のネットワーク化が重要であり、よかまち未来プロジェクト等との取組を盛り込んでいるため、その地域を拡大していくこと、また、高齢者への対応として、病院までの交通手段を確保することも検討すること。

● 政策（３）道路などの整備　施策①都市の骨格となる道路ネットワークの整備

● 施策（３）道路などの整備　施策②道路などの安全対策とバリアフリー化

通学路の整備が課題ではないか。次の施策にもつながるが、安全対策とバリアフリー化の中でも、特に通学路の歩道の幅員を整備していただきたい。

自転車のネットワークについては、長期的に考えて整備してほしい。

駅のバリアフリー化が必要であるという指摘があった。

● 政策（３）道路などの整備　施策③道路・橋の長寿命化

主な取組（２）について、大きな目的は点検による効率化である。ドローンだけではなく、全体的にいろんな工程があるため、取捨選択して効率化を進めていただきたい。

● 政策（４）上下水道の整備　施策①安全で安定的な水の供給

国の新しい方針に合わせた記載が必要ではないか。

● 政策（４）上下水道の整備　施策②地域の状況に適した下水道の整備

コンパクトシティに向けて上下水道を整備していく、下水道を広げすぎないことが必要である。

合流地点の升等により設計量を超えた雨対策として防災に繋ぐことができるという重要な指摘があった。

● 政策（４）上下水道の整備　施策③浸水被害対策の推進

浚渫について、県と協力して実施する方法を検討していただき、危機管理型水位計を増やす取組についても指摘があった。

● 政策（５）豊かな自然環境の保全　施策①豊かな自然環境の保全

森林放棄地を増やさないこと、どう対策していくかが大きな課題であり、害獣対策にもつながることである。また、イノシシやアナグマ、猿など危険な動物をどう対策していくか周知啓発していただきたい。

● 政策（５）豊かな自然環境の保全　施策②脱炭素社会と循環型社会の形成

九州大学が協力できるかもしれないというところで、水素の扱いを検討いただきたい。

➢ **その他**

■　坂井委員

景観について、景観を守る手立てが糸島市にはないと指摘をさせていただいた。今大変美しい景観を糸島市は持っているため、それを維持発展していただきたいと思う。同じお金を使うのであれば、自分の土地、自分の建物として自由に周りと違うことするのではなく、周辺に調和させ、美しい方向に使っていただきたい。そういう思いで景観の話をさせていただいた。

・質疑意見等なし

5　その他

・事務局から今後のスケジュールに関する説明

・質疑意見等なし

6　閉会

・吉岡副会長による閉会のあいさつ

（終了）